

## 編集後記

2026年、スポーツファンにとってはたまらない1年が幕を開けました。2月のミラノ・コルティナ冬季五輪、3月のWBC、そして6月のサッカーワールドカップと、まさにビッグイベントのオンパレードです。日本のアスリートたちが世界の大舞台でどのような活躍を見せてくれるのか、今から楽しみでなりません、「応援で寝不足です…」なんて声が、あちこちから聞こえてきそうです。

そんな世界で戦う一流アスリートたちも、最初から世界の主役だったわけではありません。はじめは地元のホームグラウンドで地道に練習し、国内の試合で場数を踏み、そこでつかんだ自信と経験を糧に世界へ羽ばたいていったはずです。

実は、この過程は私たちの医学研究の世界においても共通するものがあると考えています。いずれ英文誌に投稿したいと考えている先生方にとって、和文誌への投稿は、いわば「ホームグラウンド」での研鑽の場だと思います。使い慣れた日本語で論理を組み立て、査読の先生方とキャッチボールをしながら知見を深めていく。この一連のプロセスこそが、世界で戦うための重要なトレーニングになるはずです。和文誌でしっかりと技を磨き、一つの論文を書き上げる喜びを知ることが、やがて世界を驚かせる大きな成果へと繋がっていくのだと思います。

2026年のアスリートたちの熱いプレーに負けないくらい、本誌からも熱意あふれる論文が数多く生まれることを、編集委員一同、心より願っております。皆様からの意欲的なご投稿を、お待ちしております！

(東 浩二)